

「生命の教育」創始者 谷口雅春先生 今月の言葉

深切な動作を身につければ運命もよくなる

人から常によい感じを受けるには

あなたが常に人々に対して深切な好意ある表情をしていられましたならば、あなたに対した人は常にあなたから好い感じを受けましょう。あなたから好い感じを受けましたら、その相手の人はあなたを好きにならずにいられないでしょう。(中略)

では、皆さん、人に対したときには不平そうな膨れた表情をしないで、深切な、愉快的相手を歓迎するような表情をいたしましょう。しかし顔の様子というものは、

習慣になっているものですから、今、この人によく思われないと思つて愉快に深切に見せかけようとしましても、一時は努めてわざとそういう表情ができるでしょうけれども、すぐ習慣のついた顔付に変わるものです。(中略)いつも怒っている人はこわい顔になりますし、いつも人に好い感じをもっている人は、また自分がよい感じの顔になります。ですから顔の表情をよくするには一時の付焼刃では駄目です。いつもいつも、深切な、やさしい、快活な、好意のある、誰のためにも思い遣りのある心を持っていれば、そのような顔になるのです。

『人生読本』237～239頁

言葉づかいや動作が運命をよくする

運命をよくするには常に善き言葉を使い、身体からだの動作を深切しんせつ丁寧ていねいにしなければなりません。丁寧にお辞儀じぎをしたら損そんをするとか、自分が相手より下のものだと思われて恥はづかしいとか考えるのは間違まちがいです。世の中の人は、表情や身体からだを深切丁寧にする人をかえって、「あの人は偉い人だ」と賞ほめるのです。これに反して「あいつは馬鹿ばかだ、ろくろく言葉の使い方も知らない、お辞儀をする術すべも知らない」と言いって人から軽蔑けいべつせられるのは、言葉使いのぞんざいな人や、身体からだの動作に深切があらわれない人です。こんな人の運命はよくなりません。

（『人生読本』262頁）

丁寧で深切な動作を身につけるには

子供に限らず、大人でも頭を下げることを屈ひず辱かの

ように思っている方がありますが、そんな方は一度自分の全身が映る鏡の前に立たって、にこやかに微笑して丁寧にお辞儀じぎして鏡の中を御覧ごらんなさい。どのくらい自分が上品に気高く立派に見えましょう。こんな自分なら尊敬してよいと、我われながら自分が好きになるでしょう。その次に、今度は、いやいや無理にちよつと頭を下さげた時のことを想出おもいだし、その時の気持でぞんざいにちよつと頭を下さげて、その映る姿を鏡に映して御覧ごらんなさい——自分の恰好かっかがどんなに不快な気持の悪い様子である事が判わかりましょう。我われながら、「こんなキザな恰好をする奴やつは嫌いなア」とお考えになるでしょう。あなた自身すら「嫌いなア」とお考えになるくらいなら、他ひとから見たら一層嫌われるにきまっています。（中略）皆さん、「ああ、あの人は上品で気尚けだかくて深切しんせつだ、尊敬したくなる」といようなお辞儀の仕方や身体からだの動作を鏡の前で稽古けいこしておいて、その気持を忘れないで、人を出迎え、物言う時に、その通りに丁寧深切になさいませ。

（『人生読本』263～264頁）

礼儀の正しさは大切な値打です

世の中には学問も良くでき、立派な才能を有ちながら、運が悪くて、勤め先をあちらへ更り、こちらへ更り、しまいには落ちぶれて働く先もなくなるような人があります。そんな人はたいいてい、気が短くて、言葉使いに深切がなく、身体からだの動作に礼儀正しさのない人です。

(中略) 人間の値打ねうちを智慧や学問ばかりにあると思うのは間違まちがいです。尚なおそれよりも態度の優美ということ、何よりも必要な人間の値打ねうちです。最初はどういう態度が美しいかは、鏡を見て稽古けいこをなさるのもよろしい。どの程度に微笑する事が相手に気持のよい感じを与えるか、十分研究して置いて相手に快よい気持を与える稽古けいこをなさい。「そんな話つまらないことを研究するよりも、本を読む方が偉くなる」とお考えになるかも知れません。しかしあなたがいくら偉くなっても、姿態かおかたちはあなた自身の玄関のショーウィンドーです。ショーウィンドーが埃

だらけでは、いくら家の中に上等の品物があっても、中まで入って買ってくれないでしょう。

〔『人生読本』265～266頁〕

深切な心を日々心がけましょう

と言って、言葉態度の美しさは形ばかり真似まねても、真似ないよりはよろしいが、それだけでは本当に言葉態度が良くなりません。心に気品を持ち、心に優しさを持ち、心に深切しんせつを本当に持たないで、言葉や形ばかりを真似たのでは、どうしても嘘うそらしい空々そらそらしさが見え透すいて人が感心するものではありません。何よりも必要なのは本当に深切な心持こころもちです。「あの人によい思いをさせてあげたい、あの人をよい気持にさせてあげたい、どんな人にも不快な気持をさせたくない。」こういう気持を持つように日々心掛けておれば自然に言葉態度が優しく深切しんせつに、誰たれにとつても気持がよくなれるのです。

〔『人生読本』267頁〕